

# 第 1 章 鹿 児 島 市 の 概 要



## 第1節 自然環境

### 1 位置及び地勢

本市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央にあって、北は姶良市、西は日置市、南は指宿市などと接しています。また、東は鹿児島湾をはさみ、雄大な桜島を含んだ東西32.6km、南北50.9kmの風光明媚な都市です。

市街地は、鹿児島湾に流入する甲突川など6つの二級河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100m～300mの丘陵地帯（シラス台地）となっています。

鹿児島市のシンボルとして知られている桜島（標高1,117m）は、市街地から約4kmの対岸にあり、令和元年は昨年よりやや活動が低下している状況です。

#### 桜島火山活動状況

（資料：鹿児島地方気象台、鹿児島

年次 1～12月	噴火 (回)	うち 爆発 (回)	噴煙 (回) (注1)	地震 (回)	降灰量 (g/m <sup>2</sup> )	
					気象台	市役所
29	406	81	369	7,295	162	697
30	479	246	396	3,811	1,218	1,194
元	393	228	351	3,959	463	599

（注1）概ね噴煙の高さが火口縁上1,000m以上

### 2 気象

本市の令和元年の気温は、最高気温35.0℃、最低気温0.6℃であり、年間平均気温19.4℃という温暖な気候に恵まれています。

#### 気象概況

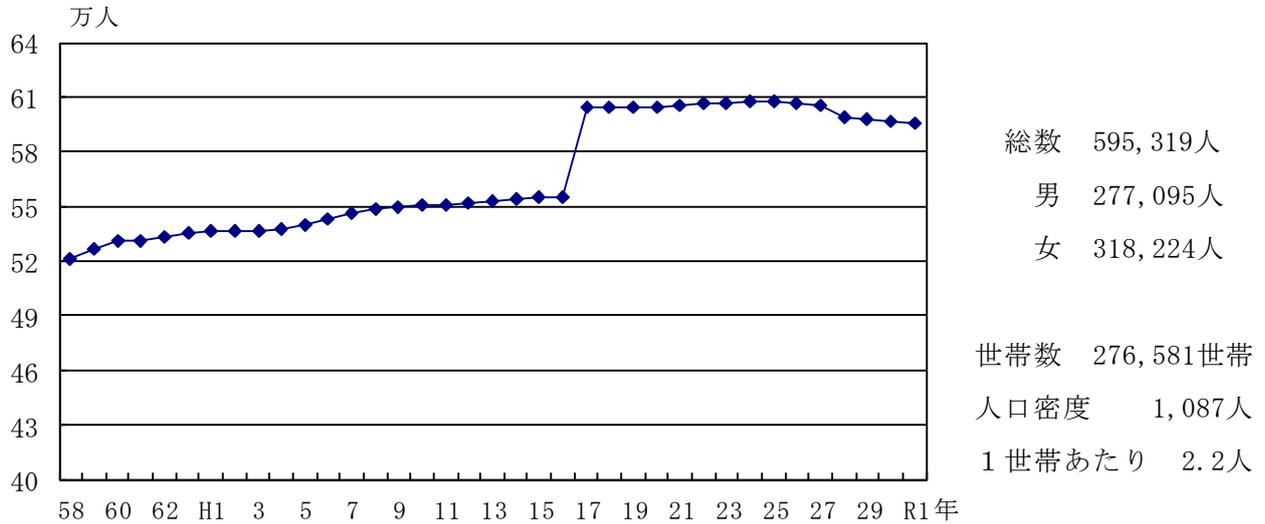
（資料：鹿児島地方気象台）

年次 1～12月	気温 (°C)			平均湿度 (%)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
	平均	最高	最低			
29	18.6	36.0	-0.3	73	2,274.0	2,027.2
30	19.0	36.3	-1.3	73	2,397.0	2,051.2
元	19.4	35.0	0.6	72	2,470.0	1,971.2

## 第2節 社会環境

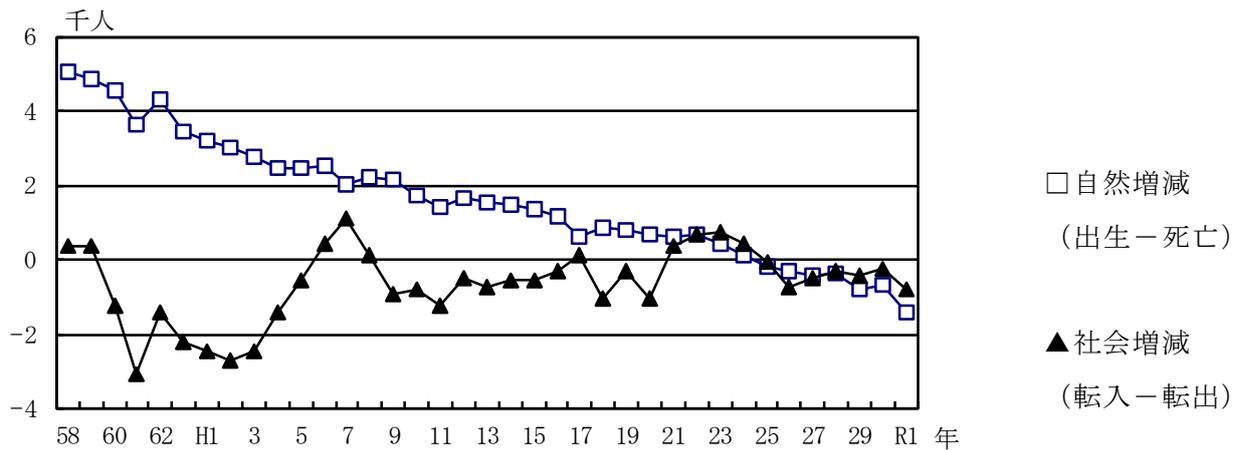
### 1 人口及び世帯数

本市の令和元年10月1日現在の推計人口は、595,319人で、世帯数は276,581世帯、人口密度は1km<sup>2</sup>当たり1,087人となっています（図1-1）。



（備考） 各年10月1日現在推計人口 国勢調査年次については国勢調査結果人口

図1-1 人口の推移 （資料：総務省統計局、市民課、総務課）



（備考） 各年1月1日～12月31日現在 平成16年10月までは旧鹿児島市の数値

図1-2 人口動態の推移 （資料：市民課）

## 2 産業

本市は、商業・サービス業を中心に発展してきており、南九州における産業活動の拠点都市として重要な役割を担っています。

平成28年経済センサス（平成30年6月28日公表）によると、本市の産業別事業所数は卸売・小売業がトップを占め、続いて宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉、生活関連サービス業・娯楽業、建設業の順になっています。

### 産業別事業所数及び従業者数

（資料：総務省統計局、経済センサス）

	事業所数	従業者数
農業	62	364
林業	9	113
漁業	11	160
鉱業・採石業・砂利採取業	7	70
建設業	2,308	19,092
製造業	1,155	16,588
電気・ガス・熱供給・水道業	27	1,409
情報通信業	281	5,040
運輸業・郵便業	724	15,383
卸売・小売業	7,673	68,866
金融・保険業	566	8,936
不動産業・物品賃貸業	1,706	6,270
学術研究・専門・技術サービス業	1,392	8,103
宿泊業・飲食サービス業	3,484	26,896
生活関連サービス業・娯楽業	2,397	12,284
教育・学習支援業	862	12,087
医療・福祉	2,677	51,188
複合サービス事業	166	2,619
サービス業（他に分類されないもの）	1,772	19,101
全産業（公務を除く）	27,279	274,569

### 3 交通の状況

本市の幹線道路は、国道3号、10号、225号、226号などの主要幹線道路と、これらを南北に連絡する唐湊通線、鴨池高見馬場線、東西に走る鹿児島中央停車場線、ナポリ通線、中洲通線などの幹線道路によって全体の骨格を形成しています。

高速道路網は、九州縦貫自動車道が北九州市～鹿児島市間で全線開通しており、南九州西回り自動車道や東九州自動車道も整備されつつあります。また、南は指宿スカイラインと接続しています。本市の自動車台数は、ここ数年46万台を上回る水準で推移し（図1-3）、地球温暖化への影響が懸念されます。

鉄道は、鹿児島中央駅から指宿枕崎線が、また、鹿児島駅から鹿児島本線、日豊本線がのびており、平成23年3月に九州新幹線が博多まで全線開業しました。

海上交通は、鹿児島港が桜島・大隅方面への湾内航路、奄美方面や種子屋久及び沖縄への長距離航路の拠点となっています。

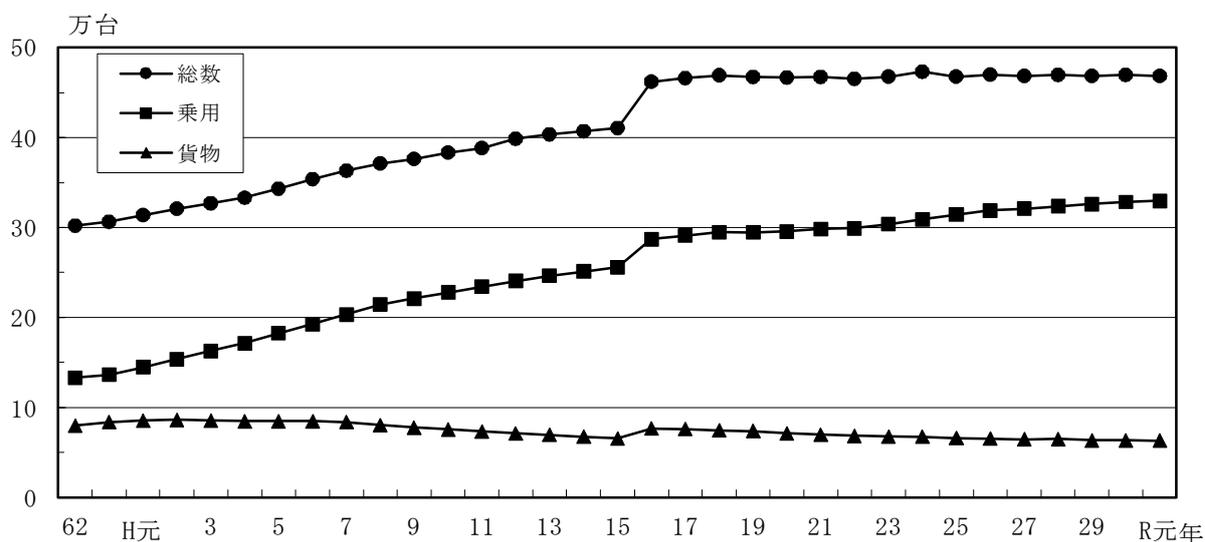


図1-3 自動車登録台数の推移 (資料: 鹿児島運輸支局、市民税課 令和2年3月末)

車種別登録自動車台数 (資料: 鹿児島運輸支局、市民税課 令和2年3月末)

(単位: 台)

総数	貨物用	乗合用	乗用	特種(殊)車	二輪車	原付
468,368	63,060	1,627	329,597	12,389	16,104	45,591

#### 4 土地利用

鹿児島市における都市計画区域面積の約75%が線引き都市計画区域であり、市街化区域は21.9%、市街化調整区域は53.5%となっています。

都市計画用途地域の状況 (資料：都市計画課 令和2年3月末)

	面積 (ha)	割合 (%)
<b>【線引き都市計画区域】</b>	<b>【 29,021 】</b>	<b>【 75.4 】</b>
市街化区域 (用途地域)	8,412	21.9
市街化調整区域	20,609	53.5
<b>【非線引き都市計画区域】</b>	<b>【 9,466 】</b>	<b>【 24.6 】</b>
用途地域	428	1.1
特定用途制限地域	571	1.5
その他	8,467	22.0
合 計	38,487	100.0

用途地域	面積 (ha)	割合 (%)
第一種低層住居専用区域	約 4,028	45.7
第二種低層住居専用区域	約 142	1.6
第一種中高層住居専用区域	約 408.5	4.6
第二種中高層住居専用区域	約 843.2	9.5
第一種住居地域	約 920	10.4
第二種住居地域	約 101	1.1
準住居地域	約 215.6	2.4
近隣商業地域	約 304.2	3.4
商業地域	約 506	5.7
準工業地域	約 553.3	6.3
工業地域	約 237	2.7
工業専用地域	約 582	6.6
合 計	約 8,840	100.0

## 5 上水道

本市の水道事業における令和元年度末の給水件数は、309,689件で前年度より2,174件増加し、給水人口は、574,400人で前年度より1,200人減少しています。

年間給水量は63,932,314 $\text{m}^3$ で、前年度より574,024 $\text{m}^3$  (0.89%) の減少となっています。上水の水源別給水割合は、表流水が60.8%、湧水が27.0%、地下水が12.1%となっています。

用途別有収水量では、生活用水量が46,512,813 $\text{m}^3$ で有収水量の78.9%を占めています。

### 給水人口と給水量

(資料：水道局 令和2年3月末)

給水件数	給水人口 (人)	年間給水量 ( $\text{m}^3$ )	有収水量 ( $\text{m}^3$ ) (注1)		
			生活用水	都市活動用水	計
309,689	574,400	63,932,314	46,512,813	12,442,598	58,955,411

(注1) 料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量

### 水源別給水量

(資料：水道局 令和2年3月末)

水 源	年間給水量 ( $\text{m}^3$ )	構成比 (%)
表 流 水	38,882,962	60.8
伏 流 水	35,883	0.1
湧 水	17,267,710	27.0
地 下 水	7,745,759	12.1
合 計	63,932,314	100.0

## 6 公共下水道

公共下水道は、快適な生活環境を確保するだけでなく、公共用水域の水質保全についても大きな役割を担っています。

令和2年3月末現在の公共下水道の整備状況は、行政区域内人口に対する普及率が79.4%となっています。

### 下水道の整備状況

(資料：水道局 令和2年3月末)

行政区域内人口 (A)	処理区域		水 洗 化 人 口 (C)	下水道普及率(%) (B/A)	水洗化率(%)	
	面積(ha)	人口(B)			(C/A)	(C/B)
593,474	7,061	471,100	463,000	79.4	78.0	98.3